

令和2年8月3日

各会員事業者の皆さん

群馬県地域密着型サービス連絡協議会
会長 恩田初男

アンケート結果と連絡協議会としての方向性・対応について

会員事業所に対して「新型コロナウイルスの困った事」のアンケートをお願いしたところ
です。ようやく集計が整いましたので同封いたします。

この集計結果は、すでに群馬県及び各市町村の担当者宛てに送付してあります。

アンケートに基づき、新型コロナウイルス感染の第2波や第3波に備え、連絡協議会の
役員会で検討し、下記の対応をとることになりましたので、ご報告いたします。

また一部の対応事項はすでに進行しています。

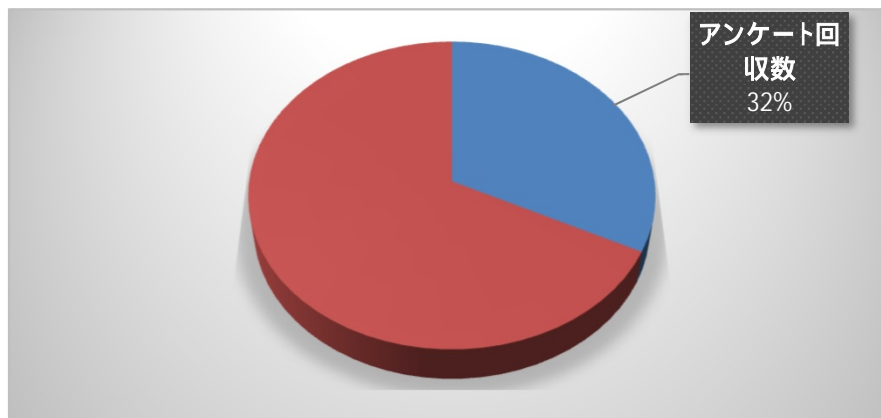
連絡協議会としての対応

- ①集団感染が発生した事業所（10事業所分）に対して提供するガウンやフェイスガード
等の備蓄をすることとしました。現在購入を進めています。
- ②事業所で感染発生に対する不安が多数あったことから、利用者及び職員の感染症が疑わ
れる段階から実際に感染者が発生してしまった段階まで事業所コロナウィルス行動マ
ニュアル（例）を作成し、会員事業所に提示する。
- ③群馬県知事に対して、介護サービス事業者において感染が疑われる利用者・職員があっ
た場合、優先的にPCR検査を受けられるよう関係機関への通知等の要望書の提出。
8月4日に提出。内容別紙
- ④集団感染が生じた場合の職員不足の対応のため、介護事業所全体で仕組みづくりの要
望。今後、群馬県と検討したい。
- ⑤感染発生時に備え、関係機関（保健福祉事務所・市町村・医師会・介護保険事業所等を
想定）との事前の情報交換の開催依頼。今後、群馬県と検討したい。
- ⑥集団感染の予防・発生時の対応方法・関係機関との連携等に関する、具体的な講習会の
開催依頼。今後、群馬県と検討したい。

首都圏での感染者が増加しています。既に第2波と考えられます。会員事業所の皆さんに
は、ご心配の日々を過ごされている事と思います。連絡協議会では順次、上記の対応を進め
たいと思います。ご理解、ご協力をお願いいたします。

群馬県地域密着型サービス連絡協議会
令和2年度 新型コロナウイルスの困った事の情報収集

アンケート送付数	アンケート回収数	アンケート未回収数	回収率
315	103	212	32%



事業の種別

(単位:事業所)

併設あり

認知症対応型共同生活介護	59
看護・小規模多機能型居宅介護	26
認知症対応型通所介護(共用型含む)	14

情報取得の困った事(厚生労働省の最新情報・地域の感染者情報・群馬県からの情報など)

- ・町やインターネット・メール情報で補完できているため、情報取得は特に困っていません。
- ・同じ情報が県と市から来るので膨大な量になっている
- ・最新情報の更新頻繁にあり、情報の確認に時間がかかった。
- ・発生した場合の連協の協力応援の程度。
- ・感染者の情報については、特に介護施設では正しく詳細な情報を得た上で対応したいと考えます。個人情報保護との兼ね合いで難しい部分もあるとは思いますが、介護施設関連の感染者情報が、早期に詳細かつ正確に知る事が出来ない事で、利用者家族職員の不安が大きくなった。
- ・地域の感染者情報についてはっきりした情報が届いておらず、テレビや口コミ等の話で終わってしまう。正確な情報を早く知りたい。
- ・情報の集約が間に合わなかった。
- ・ホームページ(県・市)は情報が1日遅れなので当日の情報が把握しにくかったです。
- ・前橋市・群馬県は感染者数等の情報以外に病院介護施設に対してどのような取組みをしているのか、よくわかりません。担当会に問い合わせてもらいたい回しにされる感があります。介護現場が不安、混乱に陥らないよう親切的な対応と情報開示をお願いしたい。
- ・県と市のホームページで感染者数などが前日の数値なので、当日の情報をタイムリーに把握したい。
- ・県内の他事業所の感染予防対策を具体的に知りたい。良い事は参考にしたいと思いました。
- ・地域の感染者情報が遅く、行動範囲等もう少し分かり易いと安心
- ・各所からメール等で同じような内容の情報が膨大に来て、確認しきれないものもあった。ある程度、統一されていると確認がし易いと思いました。

・情報がテレビを見るしか知る事が出来なかった。同系列の会社(施設)で要請の方が出た情報も入ってこない。全くといって情報が入ってこなかった。会社からの情報なくテレビ見てと言われる。

・資料が多すぎて、全てを理解できない。ほぼ毎日メールで案内が来るが、全てに目を通せない。纏めては仕方がない事だが、情報が小出しで頻繁に変わるので対応に困った
・高崎市とか前橋市だけですとどこで感染が広がっているのか解り辛い、もう少し詳しい情報が欲しい。
・介護施設内の感染ルート等の情報が伝わって来なかった。
・市町村名のみで不十分で対処のしようがない。勤務先、自宅の町名まで公表すべき。感染者の発症前後の立ち寄り先も公表すべき。

・感染者の情報が分からずどう行動してよいかも分からず不安だった。
・施設にてコロナウィルスが発生した際の情報が遅かった。
・地域の感染者情報について
・もし事業所内に感染者が出た場合はどうなるのか不安。マニュアルの流れがあれば良いと思った。
・運営推進会議の開催をどうするかなどは市の方から中止にする場合の時期など具体的な指示が欲しい。
・県ホームページの情報が遅かった。約1日経ってから情報が出る。
・情報がありすぎる。何が最新なのか? 国、自治体それぞれ解釈の違いあり、まどう。
・市内有料老人ホームのコロナ発生について、テレビ以外ではほぼ情報を頂けていない。
・情報(同じような内容)が沢山あり、読むのが困難ではあったが、まめにはメールがあった。
・本部からの情報
・情報の重複、膨大、頻雑 その纏めと整理が大作業
・同じよう内容のメールが頻回で、どれが正しいのか分かりにくかった、特に一部分のみ修正した通知など、修正場所が把握しにくかったので、修正部分のみの通知だとありがたかった。情報量が多すぎて最後は流し読みになってしまった。
・情報提供の頻度が多く、最新情報をタイムリーに頭の中で整理できていなかった。
・各関係所から毎日情報が更新され、施設での対応がやや大変でした。
・法人のため情報あり
・実際に施設で感染が発生した場合の対応について、経験のない事なので、対策をたてようにもイメージができない。施設を運営している者同士、感染が発生した施設を責めようという気持ちはないので、感染が発生した際の状況やその時の対応などの情報を共有し、万が一の拡大防止に努めたいと考える。施設で何名の感染者が出たとか、そういう情報だけでは、介護現場での対策としてほとんど役に立たない。

・地域病院の感染者の情報が詳しく分からず、利勝者さんが接触しているかしていないか不安であった。
・色々な情報が多く混乱した
・確定した情報がない(情報量が多い、分かりやすいようが少なかった)
・感染者の居住している地区(学校単位)をもっと詳しく知りたい。感染者の行動ルートをもっと詳しく知りたい(往診(歯科も含め)介護サービス等利用していた場合は詳しく知りたい。
・地域の発生源をもう少し狭めて発表して頂けると良かった。例えば中学校区とか発生した施設の関係者行動履歴がわかると良い

・県内でも数箇所の施設でクラスター感染が発生しておりましたが、発表や報道で感染経路や発生後の対応、該当施設の濃厚接触者などの情報が分からず対策を講じるのに苦労した。

・地域の感染者情報
・地域での感染予防の為に感染者の生活圏域は詳細知りたかった。市よりの情報提供と自らの通知をHP(厚生省)で確認していた。しかし群馬県HPより群馬TVニュースの情報の方が早かった。

・高崎市もスタッフに一人二枚とか三枚とか配分しますというメールで大変だったが、マスク不足で取りに行かなくちゃだが、取りに行く時間も作るのも大変でした。

・実際に感染者が出た場合の対応に対してどのようにしていくのか見えてこない。
・図解の書類はとても見やすく、勉強になりました。

・県や市から厚生労働省からの事務連絡や介護保険最新情報をこまめに送って頂きスタッフ間で回覧したり、施設内に掲示したりすることができましたが、県内の施設でコロナウィルス陽性の方が出た時に、噂ばかり流れて、きちんとした情報がありませんでした。新聞の情報では県としてどのように対応したのか？施設内でどのようなコロナ対策をしていたのか？感染者が出た後入居されている方々は、どこでどの様に過ごせたのか？濃厚接触者となった介護スタッフはどうしていたのか？介護現場の私達は今のままでよいのか？などわからないことが多く、不安が広がるばかりでした。3蜜が避けられない介護現場で高齢弱者を守るため、日々頑張っている私達の不安が少しでも減らせるように、また、同じようなクラスターを発生させない為に、必要な情報はきちんと早めに流していただきたいと思います。

・新聞やテレビなどの情報取得が出来たのと、法人内での情報共有が出来ていたのも、特になかった。
・厚生省発出の情報は市担当華からのメール配信を通して迅速に受け取れましたが、県内の地域の感染者情報は、県、市のホームページを毎日見るしか方法がありませんでした。

・近所で「コロナウィルス患者が出た」「さん」と言うデマが度々流れた。
・情報が厚労省や県から、市から入ってくる。情報が多くて大変になってしまう事もある。
・職員が皆、情報に敏感に反応していたので、特に困った事はなかったですが、県内や高崎市内で発生した時にはいち早く地域、出来れば名前を知りたかった。

感染予防対策の実施で困った事(マスク等の物品・対策実施に対する職員や利用者等の理解など)

- ・マスク、消毒液の不足(販売していても高価)
- ・毎日の消毒清掃に時間がかかる。また1時間毎の空気の入替え、お迎え時の検温、職員の体温報告、面会入室制限のため、玄関での対応等、感染予防の為の業務が大幅に増えた。
- ・マスク、消毒薬等は充足しています。利用者も消毒の徹底など協力的です。
- ・マスク、グローブが無くなってしまった。
- ・毎年インフルエンザ予防対策で事前に職員のマスクは用意が出来ていたが、利用者様とご家族用のマスクはすぐに無くなってしまった。
- ・マスク・アルコール不足
- ・国や地方自治体での医療介護事業者向けの衛生用品の優先確保よりも先に、個人の買占めや転売者が動いてしまった結果、長期間に渡り、必要な施設で衛生用品の確保が出来ない状況が起きました。
- ・利用者の感染症への理解(ソーシャルディスタンス、マスクの着用)、家族の意識(コロナ)の希薄さ
- ・マスク、アルコール消毒が不足していた。自分達で確保したが、厳しかったです。今は少しずつ充足しています。
- ・消毒用エタノール・ゴーグル・ガウン・エプロン等感染者が出た場合に必要となる物品がありません。物品がない中で職員に「命を危険に晒しても介護してくれ」とは言えません。大変不安です。利用者は認知症のため「マスク着用」「距離を空ける」「個室にとどまる」などはできません。
- ・ご家族に施設の感染予防対策をお知らせしたり、ご自宅での感染予防対策への御協力をお願いしていきませんが、利用者、ご家族が実際どのような行動をされているのか不安を感じることがあります。行動を確認する事も強い制約をする事もできず、もどかしく思います。デイサービスはリスクがあると感じても利用者ご家族の現状を考えると休止するわけにもいきません。
- ・マスクに関しては一時困りましたが、工夫を施し乗り越えました。
- ・マスク、手指用アルコール消毒が不足していました。自分達で何とか確保していました。今は少しずつ充足しています。
- ・アルコール消毒の不足、1日3回の手すり等、床の消毒の負担が大きい
- ・マスク消毒液がなくなる不安がありました。国から届き不安は少し解消。対策実施に対する理解は職員は理解し、利用者はなんとなく理解。職員との会議(ケアプラン他の会議)が行なう事が難しいので情報の伝達は苦労している。
- ・利用者家族は感染予防のため面会禁止など理解されている。飛沫接触で感染するなど利用者が感染予防を理解できない。その場では分かるがすぐ忘れる。アルコール消毒すると伝えると分かるが、アルコールを噴射し手にかかる冷たいため「何をやるんだ」と怒り出す利用者もいます。小規模長期泊まりの方が家に帰れない、家族と会えない等
- ・利用者さんがマスク着用について理解可能な方もいらっしゃるが1日中マスクを着用して頂く事は困難な状況です。定期的に窓の開閉を行い換気に努めています。「寒い」と怒って窓を閉めてしまう事が毎回あります。
- ・マスク、アルコール消毒が不足し、購入にいるんな業者に問い合わせた。(防護エプロンも今の数では不足)

- ・物品が不足していた。事前に余裕を持って必要量を備蓄しておく必要があると感じました。
- ・入居者様にマスクを使ってもらうが、マスクを取ってしまう。マスクの数が少なく使用料を減らすよう努力をしていた。職員手作りのマスクを各自に配布した。アルコールが入ってこなかった。

- ・マスク、アルコール不足・職員の体調不良による人員不足・慢性的な人手不足
- ・在庫ぎりぎりでのしげた感じ
- ・消毒薬が不足した。
- ・どこまで準備してどう行動するのか、難しい。
- ・認知症の方にコロナ対策をしている事を理解してもらう事
- ・マスク・グローブ・消毒液の不足。
- ・マスク、消毒液の不足。
- ・物品の調達が出来なかった。
- ・消毒液やマスクが足らず、貰うことも出来ず不安だった。消毒液は後日、国から届いたが、マスクは残り少ない。
- ・フロアの大きさやテーブル状況等で利用者様が座る位置、密接な状況をなくすことは出来ない。認知症の方が多いため、利用者様のマスク着用は難しい。
- ・手に直接消毒するアルコールがなんとか今のところある。今後注文して届くか不安です。手すり、ドア等の消毒はある。マスクも分けて使用
- ・マスク・グローブ・消毒液の不足。換気を行うが利用者様より「寒い」と不満が聞かれ天候により換気が行なえない。密接や密着を避けられない状況。
- ・マスク・消毒液等の不足
- ・利用者によって理解できる方、出来ない方は居るものの特に問題はなし。
- ・マスクや消毒液の不足
- ・マスクが不足になった事があり、不安だった。アルコールスプレーがなくなった。
- ・マスクアルコール消毒の不足
- ・マスクアルコール消毒の不足。発熱者へのサービス提供について、ご家族から理解を得る事。
- ・発熱された入居者がいたが、グループホームでは個室であっても隔離する事は難しい。他の入居者に居室に居て頂く事も出来ない。
- ・マスク、消毒が購入できない。
- ・マスクや消毒液の不足確保
- ・マスクアルコール関係、グローブの関係が入手できない為、節約を行なった。面会制限、自宅での検温等家族ごとに理解、協力の温度差がある。
- ・マスク着用、手洗い、うがいの励行はすぐ行なえたが、その他の具体的ルールの策定には時間もかかり、最初の頃は職員の意識も低かった。
- ・物品については発生時または経過期間中に急遽のフォローがあるとうれしい。予防策としての物品はなんとか補充できている。
- ・帰宅(2ヶ月に1回2泊)される利用者の理解が得られなく、毎日一日中訴えがあり、対応に困っている。

- ・物品(マスク、エタノール)が不足するという情報に振り回されてしまったが、実際は間に合っている。伊勢崎の施設でクラスターが発生した事で、メンタル面が心配な職員が多かった。(現在も)

- ・マスク等の確保は可(法人内での協力あり)。利用者において、マスクを確保する事ができない事例あり(買い物困難時)
- ・マスク・アルコール購入困難、職員(年配)の危機感のなさ
- ・ガーゼ、消毒用アルコールの確保が困難(他製品での代替)・ご家族の対策、対応の周知。スタッフの教育(認識の統一)
- ・使い捨てマスクなどの衛生用品の備蓄について、感染者が出る事を想定した場合としなかった場合では予定数が全く違うため、どの程度確保しておくべきか困った。県や市でも必要数のアンケートがあったが、どちらを想定して回答したれ良いか分からず、感染者が出なければ足りるが感染発生に備え、不足と回答している部分もあった。例えば感染予防のための衛生用品は各事業所で確保しておき、感染者が発生した場合には県や市から必要物品などの支援が受けられるなどの体制があるとありがたいと感じた。(感染発生を想定して各事業所毎に物品を確保するのは難しいが、もしも施設内に感染者が出た場合はどうしたら良いか...という不安が大きかった)
- ・マスク消毒液等は在庫もあり、マスクは1日1枚支給できている。認知症デイのため利用中のマスクの着用が徹底できていない。
- ・非接触型の体温計や消毒液などの在庫が無く、仕入れるまでに苦慮した。

・マスクはこのままでは不足すると心配していましたが、介護事業所に布マスクが配布されたので助かりました。
・転倒して救急車を呼んだ際に、搬送先が中々決まらず1時間は施設に留まりました。

・法人にて物品未納はなかった

・マスクや消毒の入手が大変であった。確かにお金をかければ手に入るのかもしれませんが、利用者ご家族に対し、啓発活動を行ってきたが、最初の頃は中々危機感を持っていただけない事も多かった。(群馬辺りは大丈夫だろうという意識)

・利用者はマスクをしても説明を忘れてすぐとってしまう。認知症のため発症者が出た場合、施設内での隔離は極めて困難で感染拡大は避けられない。

・トイレットペーパー、マスク、消毒液は品薄で調達に苦慮しました。入居者様にマスクを着用させるのは難しくできませんでした。

・アルコール消毒が足りなくなってきた。マスクは今後の為備蓄をしておくといけない。

・マスクや消毒の不足。認知症利用者がマスクをするように促すもなかなか出来ない現状である。

・マスク、消毒関係が手に入りにくい。認知症の利用者がマスクをすぐに外してしまう。マスクをしていると飲料水の量が少なくなりがち。換気をすると嫌がる利用者がいた。

・物品の確保(アルコール・マスク・ガウン)

・マスク不足

・消毒液が不足(仕入れできなくなった)で困った

・体温計(非接触)がどこも売り切れていた

・マスク、消毒液不足。認知症利用者の理解は当然できなく、事務所に居る際は職員が対応していけるが、自宅に戻る際は出来ない。

・マスクが手に入らない。換気が効果的に行なえない。

・利用者様にはコロナ感染予防に協力的でした。お休みしていた方は、一名のみでした。

・マスクや消毒液の入手が困難、面会や外出ができないことにより利用者様の不満が溜まったり認知症へも悪影響がある。

・面会制限している家族からのクレーム。面会制限による利用者のストレス。マスクアルコールだけでなく、ティッシュやトイレットペーパーも不足し不安な時期があった。

・マスク等の物品

・利用者家族との行き違い(感染予防のため家族より5月いっぱいサービスをお休みとおっしゃるが中旬になり、いつごろから利用できるのか?などと話あり)

・消毒類、特にアルコール濃度の高いものが入手できなかった。

・マスクやアルコール除菌が足りなくなり、ドラッグストアめぐりが大変。不安。

・物品の不足。家族の方については理解が得られ問題は見られなかった。

・面会制限の実施で利用者のご家族の会う機会が減ってしまい、利用者の不満・不安が出てきてしまう。外出自粛により外に出る機会が減り、歩く事が減ってしまった。

・マスク・アルコール消毒液の不足。グローブやキッチンペーパー等の物品、体温計の電池が売り切れで購入できない。(体温計も)

・危機感のない職員が多く、体温・手洗いの徹底を守らない職員への対応に困りました。

・マスクや消毒液など、医療介護現場に先に支給していただけたことは、大変助かりました。

・マスクの不足。体調不良者の対応でガウンやフェイスシールドを使用するような指示があったが、不足していた。

・消毒薬の不足で困った。利用者家族との対応で面会制限があったため理解して頂く事に困った。

・幸い物品不足に陥ることはありませんでしたが、利用者さんに危機的状況(世間、社会の事)を理解してもらうのに相当の時間を要し徹底されたとは言いがたいです。

・マスク、アルコール消毒液の確保が困難

・マスクを付ける事を理解できない認知症のご利用者が多いので、マスク着用ができなかった。部屋で過ごすよう説明しても理解が出来ない為、人のそばに寄っていく認知症のご利用者が複数いるので対応が大変だった。透析をうけているご利用者がいるのですが、同じマイクロバスに乗っている人がコロナ疑いとなり、当施設でも透析を受けているそのご利用者を隔離対応しなければならず、検査結果が出るまでの2日間はスタッフのストレスがハンパなかった。

・社が運営するほか事業所でマスクが足らなくなり、当施設のマスクを援助した。

・マスクは職員の手作りマスクで対応。毎日交換していますが、手作りを喜んでくれています。

- ・マスクやアルコールは何とか間に合っているが、自宅の方にはマスクの配布がない。国からまずは配布されていない状況がある。利用者は認知症の方なので、コロナウィルスに対する理解が出来ない為、手洗いの協力など嫌がる事がある。
- ・最初の頃はマスク不足に心配があった。荒って使うつもりだった。ご家族からはよく理解して頂いた。

事業所運営で困った事

- ・現在までに職員の休み対応で困った事はありません。
- ・3月中旬に利用者で濃厚接触の方がいたが、通いから訪問(距離を保ち安否確認、買い物のみ対応)に2週間切り替えて対応した。
- ・グループ法人で濃厚接触者がいましたが、毎日ラインで体調(体温、だるさ、のどの痛み、食欲など)を確認していました。3日に1度電話で連絡を取り合っていました。濃厚接触者だったが、施設内で感染者が出たと噂が広がり、グループ内の職員の子供が通う保育園で休ませてもらいたいと言われ、保育園に通えない時期があった。
- ・児童がいるので出勤できない職員がいる。
- ・職員の家族の発熱、PCR検査せず。何時まで休んで頂くか悩みました。高崎市に電話して聞いたら、保健所へ聞いてくれと言われました。
- ・通常時でも、認知症高齢者の入院が難しい状況の中で、仮に感染者が発生した場合に、医療機関への受入がスムーズに行なわれるとは思えません。認知症高齢者を受け入れる事が出来、かつ感染症への対応のできる医療機関の拡充が必要ではないでしょうか。ほとんどの介護施設は感染症患者の隔離による対応の出来る余剰人員を確保できる状況ではなく、また職員自体も勤務できない状況もあり得るため、感染もしくは感染の疑いがある職員が発生した場合、事業の継続に直結する事態になりかねず、特に単独、小規模の施設では不安が増大しています。
- ・家族への意識向け
- ・職員が感染・濃厚接触など今の所ないが、起きたときにどうやって利用者を守るのが不安です。
- ・感染者が出た場合職員から「出勤できない」と申し出があったら出勤を強制できません。また職員が感染し複数名休むことになったら業務が回りません。どうしたら良いのか大変不安です。利用者様(濃厚接触者)を速やかに他の場所へ移すまたは人物支援をいただくなど行政の支援をお願いしたい
- ・感染が広がった場合、利用者様(濃厚接触者)を引受けて頂けるところがあるのか大変不安です。マスコミ報道によると風評被害も大きいようです。自力で引き受け先を探すのは困難です。また施設で介護する場合は消毒用エタノール・ゴーグル・ガウン・エプロン等の物品はありません。職員も感染や出勤拒否で人数が著しく減ると思われます。行政の支援をお願いしたい。
- ・職員が感染または濃厚接触などになった時に事業所は休止せざるを得ないが、自宅に帰れない利用者にもどう対応するか不安です。
- ・休校による出勤の不可、ダブルワーク(大型商業施設)をしている職員の出勤停止
- ・希望保育にて出勤できる日とできない日のある職員がいる
- ・児童がいる職員の勤務時間が短くなり他の職員の勤務時間カバーしている。マスクを付けていると暑く、夏本番で体力がもつか心配。人員基準を満たせなくなる。いつまで感染予防すれば良いか分からないため不安
- ・今のところ職員及び家族が濃厚接触者等は居ませんが、もしその様な時、ギリギリの人員体制なので苦慮しています。
- ・平熱の高い方の37度とはよくあるが、感染症対策をするか判断に困った。
- ・実際に感染者が出てしまった場合の対応策が曖昧だった。事業所ごと地域ごとで統一したものが必要と感じた。
- ・リネン、食材配達等他業者の出入りがあるため、接触を少なくするように、玄関前での対応がいつもと違い戸惑った。
- ・子供の対応でパート職員が欠勤、その為他の職員のしわ寄せがあり余計大変だった。
- ・感染症予防のために事業所間での職員の移動制限をした。その事により事業所間の連携が取りにくい状況になった。
- ・今は職員など減少などなく通常です。
- ・子供の休校に伴い、出勤ができない職員がいる。少しでも体調不良の場合自宅療養をしてもらうため、人員の確保が大変。
- ・介助で利用者様と密着することが多く、感染に至らないかが心配。
- ・自宅待機を命じた職員に対する補償に困った。
- ・子供がいる職員の出勤軽減による人員不足。職員のご家族の会社で感染者が出た際の出勤の対応。

- ・小学校等休みで出勤者確保が調整が難しかった。
 - ・外出自粛により地域との関わりが持てなくなった。
 - ・外出自粛により地域との関わりが持てなくなった。
 - ・職員の家族の関係で発生した場合、職員は濃厚接触者には当たらないが、休んでもらった。明確な基準がなくて困った。
 - ・外出レクや家族の面会が出来なくなった事により認知症の進行が早くなった。
 - ・発熱者が出た時、隔離できる部屋がない。個別的な対応がし辛い。
 - ・児童の対応は前日に予定が変更になったりし困った(入学式)
 - ・家族が発熱しているが、どうすれば良いかとか、本人も体調が悪いような気がするとか、シフトもギリギリになりそうだったので、困った。
 - ・働きたいが働けない等
 - ・体調不良等職員の予防的な勤務停止について、施設側から休みを依頼した場合(本人は元気だが、同居家族が発熱していた場合などに、本人は出勤を希望していても予防的判断で休んでもらったケース等)の金銭的な保障をどこまで行なうべきか困った。
- ・職員会議、ケアカンファレンスの場所が狭く(6畳)3蜜になるので会議を行なわなかった。)会議要項など配り意見等求めた。
- ・感染者発生に備えた物品(感染防御具)の購入費用が増えた(ゴーグル、ガウン、体温計)
 - ・緊急事態宣言に伴い施設への面会制限をかけたが、ご利用者様のご家族の理解が得られない事が数件あった。(あくまでも要請であり強制ではないであろうなど)
 - ・子供が保育園に預けられなくなり、数日間出勤できない職員が一人いました。子供が発熱と咳があり、職員の気持ちが疲れているのか、休みがちな職員が出た。またその補充をすることが難しく、疲労が連鎖してしまわないか不安であった。
 - ・少しの風邪症状でも職員を休ませているので、現場が人手不足になる。その職員がコロナ軽症者を想定した場合症状が無くなってから2週間休む必要があるがそこまでできていない。
 - ・小学生がいる職員は出勤できる日や時間が制限され、シフトを組むのが難しくなった日もありました。
 - ・子供が心配で出勤が出来ない職員がいて急にやすみを希望した。
 - ・保育所の受入や見てくれる人が居ない為、休む職員が出た。
 - ・学童利用できない子供の世話で職員が休んだ。
 - ・職員の出勤率を減らす(子供が居る為)、職員からの感染
 - ・保育園児がいるので出勤できない職員がいる
 - ・家族の面接制限の線引きをどの辺まで行なったらよいか。あるいは伝えてもらった良いが、理解してもらう為にはどうしたらよいか。
 - ・家族が感染しないか利用者さんに感染させないかが心配で退職を選択した職員がいました。
- ・家族内で発熱等があると自宅待機となり出勤できなくなり現場が回らなくなる。また職員調整の不可になる事もあり、体調不良職員が出た時の判断(出勤停止? 2週間の自宅待機? ...)
- ・3蜜を避ける等、感染予防策の徹底が介護の仕事上難しい。
 - ・児童がいて出勤できない職員は1名でした。(パート時間勤務)
 - ・幸い子供のいる職員は保育所や身内の助けで運営に困るほどの支障は無かったが、保育所へ預けている職員は不安もあったと思う。
 - ・結果的に陰性であったが、感染経路が疑わしいスタッフがあり、数日休ませた。こうしたケースが多くなると運営に支障がでる恐れがある。
 - ・食材の確保
 - ・今後感染者が出た場合の対応の仕方。マニュアル化
 - ・発熱に対して過敏に対応するしかなく特に症状がなくても微熱でも休んでもらったりしていた。
 - ・職員がいつも以上に自分や家族の体調管理に注意してくれていることから、職員の休みを長めにとってもらった事があった。
 - ・小学生が居る職員は休みたいが、人手不足で休めず子供だけで留守番をさせていました。
 - ・児童がいて出勤できない職員がいたため、勤務の調整
 - ・児童がいて出勤できない職員は特にいなかった。(職員が家族内で協力し、勤務についてくれた)
 - ・スタッフの中で学校休校などでやむを得ず休業となった人とそうでない人が生じこれが長期化すれば、スタッフ間の「和」にも影響しかねないと感じた。
 - ・子供を学童に預けたくないという理由で退職した職員がいて、人材不足が続いている。
 - ・しばらく面会を中止する事でご家族様に伝えていたが施設の対応を疑問視する方も居た。

- ・風邪気味の人、熱がある人には休んでもらう、様子を見るため長期のやすみとなり、職員の不足になる。
- ・緊急事態宣言は解除されたものの、まだ家族の面会が制限されている為、家族よりいつになったら、施設内の面会ができるのかと言われる事がある。
- ・子供がいる職員でも高校生だったので大丈夫でした。

利用者の利用状況(令和2年4月実績)

(単位:事業所)

減少しなかった	75
減少した	12

減少割合

10% 5事業所
 9% 2事業所
 7% 1事業所
 5% 1事業所
 デイ50%・入居10%

その他 困った事・不安な事

- ・利用者(家族)が感染した場合、通いは休んで頂くが、その場合の代替ケアをどうするか。正直訪問に伺いたくない職員が大多数。泊まり者に感染者が出た場合、入院できれば良いが施設内隔離となった場合のケアについて、医師等の派遣は可能か？などの対応。
- ・この感染症対策をいつまで続けなければならないか。いつ収まるか、漠然とした不安がある。
- ・発熱者が出た時(泊まり中心の利用者)医療機関を受診できるのか、入院出来るのかが不安。入院できない時、マスクや防護服がないため、対応しきれぬかどうか。PCR検査が早い時期に受けられるのか？集団感染に対する不安が大きい。
- ・ご家族の面会制限の為、ご利用者様の精神面が不安。
- ・運営推進会議の中止連絡が遅かった為2月に行なってしまった。
- ・マスクや衛生材料が高価になっており、経費がかさんでいます。物品を調達(購入)する為かなりの労力を要しており、通常の事務処理に支障をきたしています。同一建物に小規模多機能を併設しているため、小規模からの感染が懸念されます。感染が広がった場合、入所者ご家族に御理解頂けるか大変不安です。
- ・介護職員は感染のリスクを抱えながら、利用者を日々支えています。自粛すれば利用者の命と生活に関わります。リスクに対して危険手当等の支給があってもいいのではと思います。
- ・濃厚接触や体温が高い職員は出勤停止となった場合の交代職員の確保が難しい。
- ・自分自身が感染してしまう事が一番心配です。
- ・定期往診して下さる主治医が、発熱を報告したところ、電話口にも出してもらえず施設から保健所へ直接連
- ・認知症の方が感染した場合、鍵のかかった部屋で出られなくなるのは、身体拘束にあたり、鍵はかけられ
- ・継続した感染予防と職員の意識統一が必要と思う
- ・隣のデイサービスの利用者から陽性であった方が出てしまい、直接接触はしていないが、共同の浴室、玄関は消毒を職員でしましたが、デイケアは何もしておらず、同施設のグループホームの入居者、職員がいつコロナになってしまうかと心配でした。2週間以上経ち発熱者等ないが菌は死んでいるのでしょうか？会社はなにもしてくれなかった。
- ・コロナの第2波、第3波が心配です。人手不足で現場は限界に近い
- ・緊急事態宣言までの毎日何時間もの面会が変わらずに続いた。ご家族の認識の差
- ・職員が感染してしまった時、どう廻していくか？利用者さんの行動制限が出来るか？(認知症の方の為)
- ・外部から利用する方のご本人、ご家族の外出自粛状況が分かりにくく利用していただくのに不安があっ
- ・緊急事態宣言解除後に感染拡大にならないか心配。
- ・今後の日本経済や2040年に向けた介護業界のあり方。
- ・今回のアンケートは第一波の拡大期に実施すべき！第一波が収束段階の今では、役所に現状報告しても遅すぎる。

- ・ケアで使用する、プラスチックのグローブ、マスクの在庫が心配。
- ・日々施設にて感染が広まったと言う不安がある。その際の対応について。ご家族の面会はいつまでに中止したらよいのか？
- ・このような状況で施設見学等行なうことが困難という事もあり、新規の利用者の確保という面で積極的に動く事が出来ず、少し不安である。
- ・在宅からの入居希望にこの時期どう対応すれば良いか分からない。
- ・ストレスが溜まった。買い物不自由だった。
- ・新規利用の依頼が来なくなっている。
- ・個々の施設の判断によることが多いので、他施設がどうしているかなど、情報があれば良い。
- ・この先も長期にわたり感染予防に努めて行くこととなると思うが、マスク、手袋、消毒用アルコールなどの確保が心配です。
- ・発熱があった場合に受診していただけない。またコロナを心配し、内服処方のみで対応しているが、いつまでこの対応なのか心配です。
- ・いつ感染し、自分が感染源になるのでは...と不安。クラスター化した時の対応やその後の事が心配。
- ・利用自粛者も数名居たが、再開が未定となる事例あり。いつ職員や利用者から感染者が出るかは常に不安(対策を講じていても...)
- ・郵便局や病院(通院等)に頻回に行けない。管理者のリスク(業務、事務作業)が高い。
- ・面会禁止にしたため、面会希望の人が面会できなくて、利用者様とその家族が残念な様子が見られた。利用者様の様子が面会時程は伝えられなかった。(写真とわずかのコメントを請求書の送付に付け加えた)

- ・完全に終息していない事を考えると、いつ感染者が出てもおかしくない状況のため職員の外出範囲の許可や自粛をどの程度まで促すべきかが今後の課題と思われる。
- ・不安がある職員への対応などサポート面
- ・家族が面会できないため、電話で様子確認する家族がいました。オンライン面会はしていないので、全家族に入居者の動画(DVD)を郵送しました。
- ・医師会の通達により往診も出来なくなった。訪問美容の受入が出来なくなった。
- ・買い物支援で利用者とは出かけられず楽しみが減った。体操や歌を実施するときスキンシップができなくなった。利用者の見学やお試し利用の見合わせがあった。先の見通しが分からず不安である。

- ・面接の禁止、今後感染者が出た場合(職員、利用者でも)の対応
- ・職員の人数がギリギリなので、体調が不良になり、休みになるスタッフが出た場合、対応できなくなりそう。

- ・面会制限について家族より意見あり。自分の事を忘れられそうで...一目姿を見たい。写真を送って対応した。テレビ電話とか対応できないか？ 法人として対応できなかった。感染症の施設としての対応をもっと明確にしてほしい(現場の職員は不安を抱えています)感染者の施設は実際どういう対応していたのか知りたい。(感染者が出た場合の施設や病院)

- ・新規の受入ができない事で相談員に迷惑をかけてしまう。事業所で発生した場合のその後の利用者、職員に対する対応の指針が明確でない
- ・家族の面会が出来ない事で、入居者が不安になっている。
- ・アルコールの不足
- ・まずくで業務を行う職員の体調がこれから夏に向けて心配。感染しても何も症状が出ない人もいるという事で、高齢者と接していくには常に不安。

- ・入居者が外出できないため、ストレスの増強。床屋、買出し。
- ・スタッフも充分外出自粛し、感染予防に気をつけているが、どこで移ってしまうか分からない不安。自分が感染源になってしまったら...という不安をかかえている。利用者は介護度が高く、濃厚接触は避けられない。
- ・藤和の苑の場合には関連施設から職員の応援という話があったが、それが難しい小規模施設の場合はどうすれば良いのか？
- ・親族の方へ会えずに受入調整が出来ず困った。
- ・いつになったら収束し、外出や外食のレクができるのか？ご家族の面会制限はどうしたらよいのか？明確な指示がないので不安。
- ・今後施設内、職員が発症したら施設運営ができなくなる(人員不足)ことと防護服、マスク、グローブが足りないので、感染リスクが高く不安です。

- ・体調不良はないが微熱があった場合の職員の対応

- ・これからまた感染のリスクが減ったわけではない、このまま手洗いなどに心がけて行きたいが、外出する機会や地域との交流が今迄以上に減っているようである。
- ・利用者のご家族の中に施設の状況の協力をお願いを発信しても無反応なお宅が一定数いたこと。普段からのこととはいえこうゆう非常時にあってはやりきれなさが一層強かった。
- ・職員が風邪や発熱で休むと、業務に支障が出るがクラスターの事を考えると仕方がない。今後の施設運営がとても不安。
- ・職員の人数を補う為、他所から手伝いに来てもらったが、職員の十分な人数をそろえるのが、難しい。
- ・これからも利用者に対し、職員が感染源にならないように注意しなければならないというリスク。